

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森
第1・3日曜日



知足の森
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.641-642

間伐講習会を山梨県清里で行いました

【定例活動報告】 間伐講習会を実施しました

10月26日に、毎年恒例となっているチェーンソー講習会を行いました。今年も天女山の長嶋さんにお世話になり、刃の目立てから受け口の作り方、伐採に至るまで、多くの技術と知識を得ることができました。普段の間伐ではロープを使って力技で倒している場面が多いですが、今回はクサビを使った倒し方を教えていただき、新たな技を習得する良い機会となりました。私自身、普段の活動では玉切り程度でしかチェーンソーを使わず、立木を切ることへの恐怖心がありましたが、プロの方に伐採の一連の流れを丁寧に指導していただき、少し自信がついたように感じています。

また前日には、自然体験工房つむぐの村山さんより、親子向け森林体験での

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・



工夫についてお話を伺いました。これまでは導入をほとんど行わずに間伐作業と木工体験を実施していましたが、落ちていた木の実や枝の1つ1つにも、間伐の意義を伝えるヒントがあるというお話がとても印象的でした。今後の親子体験では、間伐への導入や場の雰囲気づくりにも意識を向けながら、より充実した活動していきたいと思います。

永田 桃夏（東京都立大学都市環境学部4年）

【定例活動報告】 知足の森

今回の作業は、井の頭動物園からの依頼できた木を切りました。山の中では地面が滑りやすく傾斜も急で、作業を安全に行うためには周囲の確認や声かけが欠かせませんでした。木を切る際には、倒す方向を決めて周囲の木や障害物を確認し、計画的に作業を進める必要があり、難しいなと思いました。実際に木が倒れるときの音や振動から、木の大きさと重さを実感しました。間伐では、森の中の木々の間隔を整えるために、切る木を慎重に選ぶことが重要であると学びました。過密な状態のままだと木が十分に成長できないため、間伐は森林の健全な維持に欠かせない作業だとより理解できた気がします。また、切った木材が動物園で使われるということなので、なるべく小さい木を選んで友達と協力して枝を払ったりしました。帰りに柿がもらえたので嬉しかったです。

石塚 歩樹（GTE LAB 中学1年女子）

本日は午前中はいつも通り木を伐り、その後ロープの結び方の講習を受けた後、小川付近の道の整備を行いました。午前中の間伐では、筆者のチームは比較的高いところにある木を伐り、方向や受け口やおい口なども順調に切り終えることができました。然し、目的としていた方向が悪く、枝に引っかかってしまったことや、引っ張る人員の不足などによって、人力では倒しきることができず、結果的にチルホールを使用し、倒し切りしました。その後の枝打ちや玉切りなど、どの位置に木を置いておくのかについてなど、それぞれで調節しながら、うまく行っていくことができました。

木を切り倒し終えた後、筆者とは違うチームの間伐した木が良かったということもあり、下まで運び、お昼休憩をはさんでロープの結び方についての講習を行いました。筆者はすでに何回も森に来ているにもかかわらず理解できていないということもあって、きちんとこれからの森でできるように講習を受けました。講習を終えたのち、我々はお寺の裏側から小川のほうまで向かっている道の整備に向かいました。整備をする前までは道なき道のような状態でしたが、きちんと整備したことによって、きちんと人間が利用できる道に代わりました。然し、生えている草などを見ると定期的な整備が行われないと、再び道なき道になってしまう恐れがあると感じました。

本日の森では学んだことをこれからも生かして、これからも続けていくことによって、森が生育しやすい環境や、我々も整備しやすい環境であるということを再び感じました。

岡野 佑平（GTE LAB 中学2年男子）





桜井尚武の 森のコラム

「ススキ

(*Miscanthus sinensis*) 」



図1 一株からなる株立ちのススキ

20240108 昭和記念公園西立川

図2 白く目立つ中肋

微細で強靱な鋸歯がある

20251031 吾妻つくば

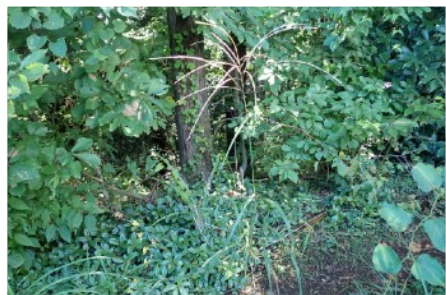


図3 林内の貧弱なススキ

20220925 草刈雷電山青梅



図4 2m以上の樹高になり下刈り期を越えたヒノキ林でもうススキには負けない

千葉県山武地方



イネ科の多年草。草丈（稈高）は1m～2mで成長のいいところでは株立ちします（図1）。葉は硬質の長い線形で根生あるいは稈の基部や中間部に着きます。葉の中肋（ちゅうろく、葉の中央にある葉脈）は大きく白い色で目立つので、ススキに似た長い線形の葉を持つ他種との区別点になります。また葉縁は全縁でなく細かく鋭い鋸歯がありますから手などを傷つけないように注意してください（図2）。

北海道から沖縄までの日本全国の山地や住宅地周辺に普通で、日当たりのよい乾燥した場所で旺盛に繁茂します。牛馬や鹿等の草食動物の食料として重要で家畜の敷き藁等の代用にも好適です。

本種は森林内でもよく見られますが、光が少ないため大きな株立ちにはならずこれがススキかと思う程の貧弱なのが多いです（図3）。けれども日当たりのいいところでは旺盛に繁茂するため新植地では植栽木の上に覆いかぶさる障害植生として林業地の害草になります。ススキの背丈を植栽木が越えて被圧されないようになるまでの5～6年間の除去作業（刈払い作業で下刈りといいます）が人手のかかる大変な時期です（図4）。ススキは草質が硬いため下刈り用の鎌の歯がすぐに鈍くなるのが欠点でしたが除草機が開発されて大分改善されました。

ススキは林業上は嫌われる一方で、人々の暮らしに大変役立ってきました。というより、昔の人々はススキを上手に利用してきました。親しまれてもいたので、秋の七草の1つに数えられているし、幽霊の正体見たり枯れ尾花と口遊まれてもいます。茅（かや）と呼ばれる植物は人々の生活に利用されていた馴染み深いイネ科やそれに似た大型草本の総称ですがその代表的なものがススキです。牛馬の飼葉（かいば、牛馬に与える餌）や刈敷（田畠に敷き込む緑肥）、家屋の屋根を葺（ふ）く建築材料などで多用されました（図5）。50年以上前の5万分の1の地図から地図作成当時は各地に草地があったことがわかります。東海道の景色を描いた浮世絵には草地の広がる景色が多く描かれていて古くは身の回りに広い草地（茅場）があったことが解ります。

桜井 尚武（本会、会員）

図5 ご本陣の茅葺屋根

20240803 会津若松

【活動報告】 東京学芸大学の学祭「小金井祭」に出展しました

本会と活動するGREEN TECH ENGINEER LABと同じく東京学芸大Explaygroundの木育研究所で学祭に出展しました。中身は、ガチャガチャで出たキーホルダーのレーザー刻印する、というものです。ガチャガチャの仕様が100円だったので、今回は、100円で体験、かつ、大当たりにカードケースを用意しました。カードケースは3層構造になっていて、本体はShopBotで、蓋部分はレーザー加工機で、間にアクリル板が入っています。いずれも1つのイラストレーターでデータで作成して、パーツ部分をShopBot、レーザー加工機に送り、パーツを製作しました。構造を可能な限りシンプルにするために、開閉式の蓋やストッパーなどは用意せず、目的のカードを入れた後、ストラップを通すと、そのストラップでカードが紛失しない仕組みにしました。今後はデータから再生産が可能なので、各イベント出展時には追加でご用意したいと思います。

宮村 連理（本会、副理事長）



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所



緑の募金

